

#### 第Ⅳ期 第4回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

日時：2025年1月21日（火） 13時00分～13時30分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、濤崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、竝木則行委員、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）石原安野委員、高田昌広委員

陪席：

（台外）住貴宏委員（Zoom）、山田亨教授（Zoom）

（台内）土居守台長、藤田常事務部長、堀久仁子特任専門員、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

#### 1. 確認

##### 1.1 国立天文台科学戦略委員会名簿および出席者確認

出席者の確認を行った。

##### 1.2 第3回議事抄録の確認

12月16日に開催された第3回国立天文台科学戦略委員会委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

#### 2. 報告と議論

##### 2.1 実施計画策定のイメージについて

実施計画の構成案、スケジュール、進め方に関する国立天文台執行部での議論について説明があり、意見交換を行った。

（主な意見交換）

－実施計画は状況の変化に応じて更新することが考えられる。国立天文台には、コミュニティへの説明やコミュニティからのフィードバックに関して科学戦略委員会やサイエンスロードマップ策定委員会でどのようにチェック機能を働かせるのかも考えてもらいたい。

－実施計画決定のロジックや国際審査会からの意見の反映などについてコミュニティに対するアカウントビリティを果たす必要があり、その説得力がコミュニティの納得感を決める。実施計画の決定後にしっかり説明して欲しい。

－実施計画の書き方は、サイエンスロードマップとの境界線に注意が必要である。サイエンスドリブンだけでなく、国立天文台が決められる運営費交付金の計画と、そうではないフロンティアや外部機関が主導するような計画について丁寧にバランスを取ることが大事である。

以上